

成績の見方・考え方について

八女市立福島中学校

評価とは、学習の進みぶりや結果を調べ、はかることですが、その評価の仕方については、大きく分けて二つの考え方があります。

一つは、他と比較することはせず、「その学習内容をどの程度理解できているのか」「理解できていないところはどこか」という視点で成績をみる見方、つまり、個人の中で成績をみていくという見方です。これを絶対評価といいます。基本的にはこの見方が大切です。

もう一つは、平均点や度数分布などを参考に「全体の中で自分はどのくらいの位置にいるのか」「教科によって偏りはないか」など他を比較の対象として成績をみる見方です。これを絶対評価に対して相対評価といいます。

このように評価の仕方には大きく二通りの方法がありますが、今年度のテストの成績については、各教科の度数分布および平均点と偏差値をお知らせして参考にさせていただくようにいたしましたのでご理解のほどをよろしくお願いいたします。

そこで、ご存知の方もおられると思いますが、偏差値について少し紹介したいと思います。

「偏差値」っていったい何だろう？

「偏差値とは何か？」とあらためて質問されると、子どもたちはもちろん保護者の方々や私たち教員でさえも明解な回答を出せる人は意外に少ないようです。これほど方々で使用されながらその正体が不明なものもめずらしいと思います。

偏差値というのは、下のような複雑な計算によって算出されます。

$$(\text{個人の得点の偏差値}) = \frac{\{(\text{個人の得点}) - (\text{集団の平均点})\}^2 \times 10}{\sqrt{\frac{\sum (\text{個人の得点} - \text{集団の平均点})^2}{\text{集団の人数}}}} + 50$$

おおまかにいうと、皆さんは五段階相対評価をご存知だと思いますが、その五段階相対評価と同じ原理で、偏差値は、個人の得点をおよそ25点～75点ぐらいまでの50段階に振り分けて表した数値で、五段階相対評価を10倍に詳しく表した50段階相対評価ともいっても良い数値です。（つまり偏差値50といえば順位が真ん中であると思っていいということです。[平均点と同じ得点の人が、必ず偏差値50ということになります。]）

ですから、相対評価の持つ欠点「小さな集団の中では、個々の力を正確に把握することはできない」ということや「度数分布が正規分布（つり鐘状  の分布）になっていないとその処理に無理がある」ということ、また、「みんなががんばれば、自分ががんばって力が伸びていても、それが数値の上では出てこない」などの欠点は偏差値も持っています。

一つの目安としての偏差値と五段階相対評価対応表										
5段階相対評価	1		2		3		4		5	
10段階相対評価	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
偏差値	29	30 34	35 39	40 44	45 49	50 54	55 59	60 64	65 69	70

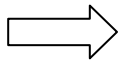
なお、学期ごとの評価は、観点別評価に基づく五段階絶対評価で行っていますが、中間テストや期末テストなどの定期テストの結果だけでなく、日頃の授業や宿題のとりくみ状況、提出物の状況等も評価の材料として大きな参考としていますので、あわせてご理解いただきますようお願い申し上げます。

テスト結果の見方についての具体例

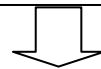
テストの結果で個人の成績を判断するとき、各教科との比較、過去のテストとの比較などにより、正しく判断することも大切です。次に例をあげながら考えてみます。

① A君のテスト結果を得点（素点）だけで判断してみます。

	国語	社会
中間	50	80
期末	70	70



*国語は成績が良くなり、社会は悪くなった。
*中間では社会がよく国語が悪いが、期末で同点だから差がない。



この判断は、少しおかしいですね、テストの難易度を考えていません。

② A君のテスト結果を得点と平均点で判断してみます。

	国語		社会	
	得点	平均	得点	平均
中間	50	(50)	80	(80)
期末	70	(60)	70	(70)



*国語は成績が良くなり、
社会は変わらない。
*中間では国語・社会とも変わらないが、
期末では国語の方が良い



だいたい正しくなりました。しかし平均以上の人何人いるかや、自分の得点より上の人何人いるかなどが分かりません。

③ ②に加えて度数分布表を利用する。

②で問題となることが大まかではあるが解決

④ A君のテスト結果を偏差値で判断してみます。

	国語		社会	
	得点	偏差値	得点	偏差値
中間	50	(50)	80	(50)
期末	70	(64)	70	(50)



*②で判断したこともすぐ分かります。
(期末の国語がすばらしく上がった。)

以上、定期テストごとに配布しております学習の記録（成績カード）について若干の説明をさせていただきましたが、これも一つの参考として学習の記録（成績カード）をご覧くださいようお願い申し上げます。